

講演会

国土強靱化に向けた 水災害に対する 新しい思想

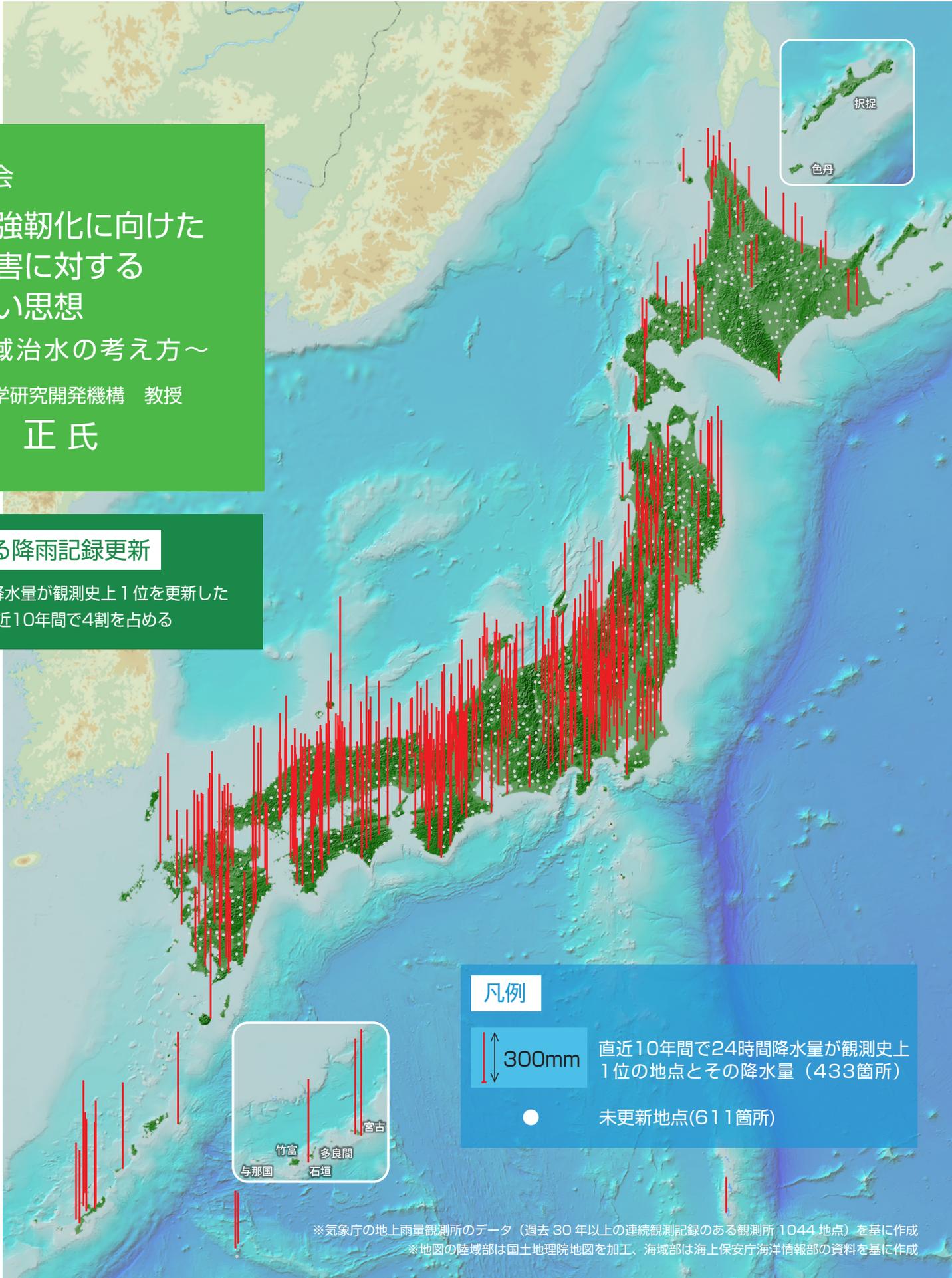
～流域治水の考え方～

中央大学研究開発機構 教授

山田 正氏

広がる降雨記録更新

24時間降水量が観測史上1位を更新した
地点は直近10年間で4割を占める



凡例

300mm

直近10年間で24時間降水量が観測史上1位の地点とその降水量(433箇所)



未更新地点(611箇所)

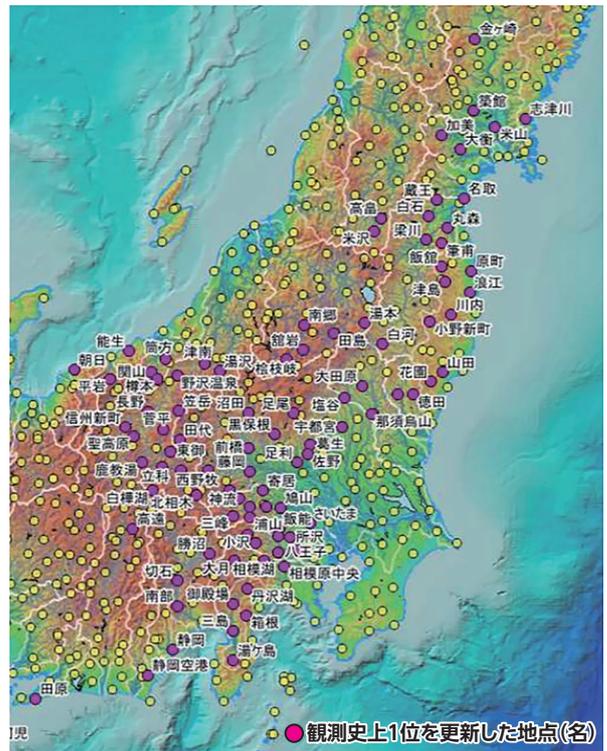
表紙の解説

表紙は、地上雨量計の観測データ^{*1}に基づき、2011年から2020年までの10年間に、24時間降水量の観測史上1位の値を更新した地点とその降水量を示している。観測地点1,044か所のうち、4割以上にあたる433か所(41.4%)で値を更新している。

中でも、令和元年東日本台風(台風第19号)は、記録的な大雨をもたらし、関東甲信地方や東北地方など、103地点で24時間降水量の観測史上1位の値を更新し、140か所の堤防が決壊等して河川が氾濫した。地球温暖化に伴う気候変動の影響により、今後さらに大雨や短時間強雨の発生頻度、降水量が増加することが予測されており、大規模な水害の発生が懸念される。

令和2年7月にとりまとめられた「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」の答申では、流域のあらゆる関係者が協働して「水害を軽減させる流域治水」の考え方に基づく水災害対策を推進することが示された。気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、施設能力を超える洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える水防災意識社会の再構築を一步進め、流域治水への転換を推進し、防災・減災が主流となる社会を目指すことが求められている。

^{*1} 気象庁が公開している地上雨量計の観測データで過去30年以上連続した記録があるもの。
参考として、2001年から2010年までの10年間に日降水量の観測史上1位の値を更新した地点は303か所、2011年から2020年までの10年間に更新した地点は383か所であり、直近10年間の方が更新のペースが速くなっている。



■台風第19号で24時間降水量観測史上1位を更新した地点(名)

出典：国土交通省資料「令和元年台風19号による被害等」



■流域治水のイメージ

出典：国土交通省ホームページ